

令和３年度 学位授与式 学長告辞

告辞

九州産業大学令和３年度学位授与式に当たり、大学を代表して、卒業生並びに保護者の皆様に「ご卒業おめでとう」のお祝いを申し上げます。また、本日、ご臨席いただきましたご来賓の皆様に厚くお礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんに次のことを伝えたいと思います。

本学は中村治四郎先生が敗戦後の荒廃の中で、国家・民族の将来を憂いて、幾多の困難を乗り越え、学校の創立を実行されました。まさに、卓然自立の体現であり、今では当たり前となった実学志向の建学の理想「産学一如」を掲げられました。みなさんは「産学一如」のもとで学んだ見識をこれからの社会で実践し、その大切さを実感することになるでしょう。同時に、次の世代にその考えを語り繋いでいくことになります。

皆さんの学生時代は、本学が創立６０周年を迎え、１００周年ビジョンとして「新たな知と地をデザインする大学へ」を掲げ、２０３０年の「文理芸融合のグローバル総合大学へ」に向けた改革が進む中での学びとなりました。また、コロナ禍で、遠隔と対面を活用した新しい授業への取り組みをはじめ、ＤＸ化による社会システムの転換や東京オリンピックの１年延期など歴史的に記憶に残る変革期の中での学生生活だったと思います。

大学にも皆さんにも新たなものを創意工夫することに挑戦する勇気とそれを実践・実現するために踏み出す勇気が求められる時代の始まりだと思っています。未来にむけて自ら考え、新たな改善・改革を起こせる力が必要なのです。

私たちを取り巻く環境は少子高齢化や地方の衰退、超スマート社会化が急速に進展しています。また、新たに想定不能な自然災害、地球環境問題、地域間の紛争などグローバルに連結した課題が加わり、これらは私たちの日常生活にまで影響を及ぼしてきています。これらの正解のない課題に向き合っていかなければならない時代になりつつあります。

一方、グローバル化の進展により、社会には、国や分野を超え、地球規模の文化や価値観があふれています。人間は自分が学び・経験した以上のことはできませんが、アートや映像などの他の分野に触れることで視野を広げることができます。皆さんは、本学で取り組んだ多様な文理芸融合の学びを活かして、新時代を切り開き、社会を変革していくことのできる、強い意志と勇気を持ち、これからの世界に羽ばたいてください。

結びに、卒業生の皆さんに「構想は大胆に、行動は着実に、どんな時も笑顔で」の言葉を送りたいと思います。学び続ける社会人として活躍されることを期待するとともに、ご健康と明るい前途を祈念して、私の告辞といたします。

令和４年３月１７日

九州産業大学長 北島己佐吉